

会 議 録

会議の名称	まち・ひと・しごと創生総合戦略等検討委員会（第4回）
事務局	企画財政部企画政策課企画政策係
開催日時	平成27年12月14日(月)午後6時00分～午後8時10分
開催場所	本庁舎3階第一会議室
出席者	委員長 渡邊 嘉二郎 委員 副委員長 本間 紀行 委員 委員 田村 裕一 委員 飯田 千洋 委員 川合 祐之 委員 北島 彩子 委員 小宮 貴大 委員 鳴海 多恵子 委員 河野 律子 委員
欠席者	
事務局	企画政策課長 水落 俊也 企画政策課長補佐 中田 陽介 企画政策課係長 廣田 豊之 株式会社創建 大谷 優 氏原 茂将
傍聴の可否	㊦ 一部不可 不可
傍聴者数	0人
【会議次第】 1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について (1) <基本目標1>における施策・取組・指標等について (2) <基本目標2>における施策・取組・指標等について (3) <基本目標3>における施策・取組・指標等について 2 その他（意見交換等）	

【会議結果】

1 小金井市まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について

(1) <基本目標1>における施策・取組・指標等について

○事務局から説明《資料No.13-1》

基本目標1「小金井の魅力を発信し、交流人口の増加を図ることにより、地域の活性化につながるまち」

○基本的な考え方

市民意向調査から、小金井に住んでいる人の約8割が転入者であり、その人たちが小金井市を選んだ理由としては、交通アクセスのよさ、住宅の事情によるものが多いことがわかった。そういう中でも、緑の豊かさや住環境のよさに引かれる方も多いという結果も出ている。そのような市の大きな魅力とも言える緑とか住環境への取り組みに加え、駅周辺をはじめとするにぎわいの創出や芸術・文化の振興、さらに、創造的産業の育成を進めていくことを目指すとしている。

○講ずべき施策の基本的方向

・基本的方向1「魅力が共存する小金井らしいまちづくりの推進」

小金井の魅力としては、豊かな緑や良好な住環境をはじめとして、これから変化していく駅周辺などのにぎわい、また、小金井の強みである大学や学生が多いということから、大学などを活用した魅力の創出など従来の魅力、または新しい魅力、埋もれている魅力を高めていくまちづくりを掲げている。

・施策①「豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進」

みどりを創出していくこと、また市の特性である「はけ」の保存や住環境のよさを維持していくための適正な土地利用の規制や誘導など、計画的に都市づくりをしていく必要がある。また、小金井は坂が多いことも特徴の一つであり、こういったところを生かしていくのも魅力の創出になる取り組みとして掲げている。

・施策②「駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出」

駅周辺については、市内は3駅あるので、武蔵小金井駅南口の再開発事業や北口のまちづくりに関すること、東小金井駅周辺については土地区画整理事業を行っている。西武線新小金井駅については武蔵野公園の玄関口となるため、特徴を生かした緑関係のまちづくりが挙げられる。

また、高架下などの既存の空きストックを活用した取り組み、魅力的な個店や地元の商業への支援などを掲げている。

施策③「小金井の強みを生かした地域経済の活性化」

平成26年4月に開設した東小金井駅の東側の高架下にある東小金井事業創造センター「K O - T O (コート)」を中心とした創業・起業支援や産業の高付加価値化を進めていくとともに、小金井の大きな強みでもある市内及び周辺における大学、研究機関を生かした産業育成などを示している。

また、小金井はベッドタウンとしての特徴もあることから、地域資源による生活関連のビジネスの育成なども掲げている。

・基本的方向2「小金井の魅力を発信するシティプロモーションの推進」
魅力は市内外に発信していかないと意味がないので、魅力を多くの人に知ってもらい、その結果として交流人口を拡大すること、そして市民に魅力を再発見してもらい、シビックプライド(愛着)につなげていくことが重要であり、そのために効果的にシティプロモーションを推進していくことを掲げている。

・施策①「シティプロモーションの推進」

ホームページ等を活用した発信や市イメージキャラクターの「こきんちゃん」、観光大使の活用を図り、小金井のよさを積極的に発信していく。

・施策②「地域資源を活用した支援人口の拡大」

観光交流という観点での取り組みでは、大々的な観光というものではなく、まちの小さな魅力の再発見につながるまちなか観光の充実や、小金井は桜も有名なので、桜の特徴をさらに生かしていくために、今年7月に玉川上水に平右衛門橋という人道橋をかけた。そういったものをはじめとする名勝小金井(サクラ)の復活に向けた取り組み等を示している。

また、芸術文化の拠点となる駅前の市民交流センターや、はげの森美術館での企画などで市内外からの来街者を呼び込み、さらには市内で回遊してもらえるようなイベントやサービスなどを実施することで、域内の経済の活性化を目指していくということを掲げている。

・基本的方向3「多様な主体の交流、協働、連携を生み出す地域の実現」

・施策①「多様な主体が関わりあう環境の充実」

さまざまな活動団体、例えばNPOとかボランティアの情報発信や交流の場づくり、また産業分野において中間支援組織の仕組みづくりにより、農業、商業、工業及び市民の連携の推進を図っていくことを示している。

・施策②「交流、協働、連携等にもとづいた活動の充実」

都市間交流である三宅島との交流や、留学生などを含めた国際交流事業の充実、芸術関係ではアートフル・アクションといった芸術、文化振興における協働事業、あとは大学や研究機関、企業、NPOとの交流の促進などの活動の充実を掲げている。

資料14のご意見について、基本目標1に関する部分については、ご意見の考え方とか方向性というのは、おおむね含めた内容としてお示しできていると考えているところであるが、例えば施策①「豊かなみどりと良好な住環境を守るまちづくりの推進」。公園などは魅力にできないかというところでは、例えば資料13-1の施策①の一番上のところに「公園・緑地などの計画的整備」という形で、大きなくくりで表現させていただいている。こういった自然環境の創出というところで魅力につなげていくという点を含んでいると考えている。

施策②「駅周辺などのにぎわいを通じたまちの魅力の創出」の白丸の2番のところで、「市内で起業・創業している人が増え、税収につなげないと」という意見の中で「小さな個店主が増え、そういう店が集まり、魅力的なストリートが作られると、小金井は復活できるんじゃないか」というご意見については、同じく基本的方向1の施策②の白丸の一番下のところで、「魅力的な個店や地元商業を支援していく」といったところにつなげていけるように取り組みとして示させていただいている。

(主な意見)

○基本的方向③の意見が出てない部分は、あまりなじみがない。大学などの状況が分からないのだが、市民と大学とのつながりを教えてもらいたい。

○科学の祭典が想起される。かなり大きな規模のイベントで、基本的方向③に該当するかと思う。ほかには学芸大学には農場があるので、有機野菜づくりの活動を市民と実施している。公開講座などの取組もあると聞いている。

○科学の祭典は市の補助金が出ている。市の活動の一部でもあるのだろう。

○大学と市民の交わるところに、お金を生み出す部分を見出せない。現実問題としてお金が生みだされないと、人はひきつけられない。その点をどう考えるべきか。

○まさにその問題がある。阿波踊りに学芸大は参加していたが、ある時点からやめた。経済的な面もあったと聞いている。地元の祭りに参加している大学もあるが、大学が費用負担をし、教員がイベントを企画していることが多いようだ。

○大学と連携することで経済活動は活性化できないかという視点ではないか。

○少年サッカーも、学芸大も教えるのがうまく、勉強している方もいるので、大学生をつかって指導の一環として呼び込もうとするのだが、ボランティアになってしまう。こちらが行くのも、学生が来るのもボランティアになる。経済的な生産がない。

○農工大はインキュベーション施設に市の家賃補助がなされている。大学の研究となると高度で先端的なことになるので、すぐに消費対象になるものではない。市民レベルで何か欲しようとするもの、経済的なつながりは大学では縁遠いが、市民といっしょに小金井の経済活動を盛り上げるような動きがあってもよい。塾はたくさんあるが、学芸大がクオリティの高い教育活動をするといったことも考えられるだろう。

○市の方から提案してもらえれば、大学の方で具体的な動きはできると思う。

○学芸大学のプレイパークが市民から好評だと聞く。大学のキャンパスを市民も使えるといった連携はもっとした方がよい。

○小金井は少年野球が強いが、練習のための場所がない。大学のキャンパスを開放してあげればよいと思う。大学が動くことは難しいだろうから、市の方から要請を出していけば動きやすいだろう。国立大学は地域連携を求められているから動くだろうし、私立も例外ではないだろう。キャンパスを見て大学に通いたいと思う子どももいるだろう。そうすればビジネスにつながる。

○連携・交流はできると思うのだが、協働がいちばんむずかしい。お金を生みだしていく協働までいくのはむずかしいのだと感じた。

○栗をつかって特産品をつくるというプロジェクトは考えられないか。売上は市民にも還元するとよい。キャンパスや自宅の庭など、有効に活用できるだろう。地域産業にかかわるような機会がつけれるとよいと思う。

○そのようなウィンウィンの関係がないと、現実問題として協働しにくいと思う。

○みどりの創出も、景観だけでなく、果実が育つといったことがあるとよい。

○大学との交流で経済的なものが生まれにくいことは分かるのだが、交流人口を増やすという観点でいうと、大学に魅力を感じるようなイベントはボランティアであっても、たとえば大学に入学したいと思う子どもが出てくれば将来の人口につながるので、経済的なことよりもよいと思う。学術機関なので、経済性を求めすぎない方がよいように思う。

○リスクはあると思うが、そこに参加する人にとって目に見える成果がないといけなのではないか。すこしのご褒美がある方がモチベーションにつながると思う。

○大学は知識を周囲に発信する場ではないかと思う。あまり経済性を求めすぎない方

がよいと思う。

○大学の知識が市民に役に立つものもあると思うので、発信してもらいたい。それが大学の魅力になっていくのではないか。やはり知識から入っていき、結果的に経済的なものにつながるという流れがよいと思う。

○科学の祭典はかなりの集客がある。小学生のいる親御さんは大学のキャンパスに行ってみたいと思うようだ。市民と大学の交流については、やはり市から大学に提案した方がよいと思う。大学が市に貢献できることを考えてもらえると、大学側も喜ぶだろう。

○「こきんちゃんの活用」と書かれているが、具体的な活用方法のイメージはあるか。たしかスタジオジブリのデザインだと思うが、最近あまり話題になっていないので、あらためてイメージ戦略を考えているのか。

→こきんちゃんは、宮崎駿氏に市制施行 50 周年で描いてもらった。着ぐるみなどもつくったが、権利関係上、ほかのキャラクターと並ばせることができないため、打ち出しとしては強くないかもしれない。ただ、グッズを展開しているので知名度を上げていきたいと思っている。ゆるキャラがブームになっているが、ジブリがつくったキャラクターなので、一線を画しているという思いもある。

(2) <基本目標 2>における施策・取組・指標等について

○事務局から説明《資料No.13-2》

基本目標 2「多様な働き方ができ、安心して結婚・出産・子育てできるまち」

○基本的な考え方

過去 3 年において合計特殊出生率が上昇しているという状況である。

一方で子供のいる世帯では、住みやすさの評価が下がるという残念な意識調査の結果も出ている。

→子供を産み育てやすい、子供が生き生き育つ環境を整えることにより、子育て世代の住みやすさの向上を図り、その結果として将来子供たちが増え、場合によっては人口構成の維持にもつながっていくことを目指している。

○講ずべき施策の基本的方向

・基本的方向 1 子どもを安心して産み育てることのできる環境の充実

全ての子育て世代が妊娠から出産、子育て期に至るまで、子育てなどに対する負担や不安が軽減され、小金井では子供を産み育てやすいと感じるような環境の整備を進めていく必要がある。

子育て家庭の支援は待機児童の解消だけではなく、地域全体で子育て家庭を見守る体制の構築も行っていくことで、小金井市で産み育てたいと思える

まちづくりを進めていくものである。

・施策①「すべての子育て家庭への支援」

全ての家庭、例えば保育園とか幼稚園へ行かれています方も含め、家庭で育てられている方に向けた情報提供、相談体制などの充実を進めていく。本日お手元にお配りした「のびのびこがねいっ子」、子育て世代に配布しているこういったものを使って情報提供とか相談体制の充実を広めているという状況で、それぞれの家庭の状況に合った支援が選択できるように情報提供を行っている。

また、待機児童解消のために保育環境の充実についても進めていく。

市では、平成29年4月に待機児童をゼロにするということを目標としている。そのために認可保育所、認証保育所だけではなく、民間の保育所や保育室または認定こども園の活用など、受け入れ体制の充実、そのほかにも保育時間の延長とか、または病児・病後児保育といった保育サービスの充実に向けた検討も進めていく必要がある。

・施策②「地域全体で子育て家庭を見守る体制の整備」

子育て関係団体等で構成される子育て・子育て支援ネットワーク協議会など、子育てを支援する、子育て家庭を見守っていく地域のネットワークの充実を図る。

また、地域全体で見守るためには、大人とか高齢者などの地域での多世代の交流も有効であると考えており、そういった交流の場の提供や、そういった活動の支援を行っていきたいと考えている。

さらに、地域にはNPOなど、子育て支援に熱心に取り組んでいる団体が数多く存在するところから、そういった団体を積極的に広報していくことで、子育てで孤立することのないよう、地域全体で支えていく体制の整備を進めていく。

・基本的方向2「子どもの育ち・学びのための環境の充実」

子育て家庭の支援というのは保護者を中心としたものだが、子供を中心とした子育てにおける取り組みも重要になる。小金井は教育環境がよくて、子供たちが伸び伸び育ち、学力もすぐれているということは広く知られているところで、この強みと言われるものを維持していくことはもちろん、伸ばしていくことも視野に、のびのび育ち、いきいき学ぶ環境を充実させていくものである。

・施策①「子どもたちがのびのび育つ環境の充実」

子どもの遊び場や遊びを通して学べる機会の充実がある。武蔵野公園のくじら山や東京学芸大学の中にあるプレーパークの充実、または放課後子ども教室などを通じた、地域と子供たちの交流などの促進を進めていくことが掲

げられている。

・施策②「子どもたちがいきいき学べる環境の充実」

学校教育において時代に対応した教育内容の充実を進めていくことや、ボランティア体験などの自立を育む体験活動の充実を図っていくこととしている。

また、小金井市の強みである学園都市としての魅力を生かしていくために、大学と連携して職場体験とか学生ボランティアなどを活用した事業や学習の支援など、地域における教育力の向上を進めていく。

・基本的方向3「小金井らしい働き方・ライフスタイルの実現」

ここでは職住近接という働き方により、より子育てしやすい環境を整えていくという考え方としている。その中に、地元で創業や起業をして、仕事と住居という、職住近接とすることもあるかと考えており、そういった観点で創業・起業支援という取り組みも位置づけている。

また、仕事と育児との両立の観点から、ワーク・ライフ・バランスの実現に向けた取り組みも推進をしていくこととしている。

・施策①「職住近接となるしごとの創出」

本格的な創業・起業の支援というよりも子育て中、または子育てが一段落ついた女性など、仕事のきっかけとして、緩やかに創業・起業していく形での就労機会を創出し、職住近接の働き方を目指していければと考えているところである。そういったしごとづくりに対する機運を醸成していく取り組みを進めていくことを示している。

・施策②「働きながら子育てができる環境の整備」

ワーク・ライフ・バランスの推進を示しているところで、女性の就労に関する講座や総合相談、働きながら子育てしていく家庭の不安や負担の解消を図っていく環境整備について掲げている。

KPIは、待機児童数、ネットワークへの参加団体数、冒険、遊び場のプレーパークの開催回数、あとは教育関係の生徒の割合の指標を掲げている。

資料14の皆さんのご意見の中で、おおむね意見と方向性は含めさせていただいているところではあるが、例えば施策①「すべての子育て家庭への支援」のところでは、待機児童ゼロという取り組みを含んでおり、また3番目の丸で、スキマにいる児童に対する施設も不足していることから、切れ目ない支援についても地域全体で子育て環境を見守る体制を、ネットワークや多世代との交流といったところで支援していくことを示している。

また、基本的方向2の施策②「学べる環境」で、学校の設備等のことにつ

いて触れられていて、こちらは老朽化の課題として捉えているところで、今後どのように進めていくか検討していくというものであり、このあたりは具体的には示されていないところだが、それらも課題として認識するというところである。

(主な意見)

○基本的方向3の施策①について、自分がうまくイメージできないのでくわしく教えてもらいたい。子どもの手の離れた女性が、もういちど仕事を持つにあたっての創業・起業が主となるのか。

→創業・起業と言うと一旗あげるイメージがあると思うが、小さなお店を開くなど、仕事をすることによって生きがいを感じられるような、育児と両立できる規模の仕事を生みだしていきたいと考えている。

○たとえばネイルサロンのようなことか。支援ということになると、講座を市で開くということも含まれるのか。

→そういった事業はKO-TOで支援していこうと考えている。

○基本的方向2のところで大学との連携が入っているのがよいと思うが、地元企業と連携してやっていくとよいのではないか。科学の祭典も地元企業がワークショップをしていたりするので、可能性があると思う。日野市では「ひのママフェス」というイベントがある。市はかかわっていないが、小さな店舗を経営している女性が集まって、ブース出店しているものだ。子ども連れがたくさん来ていた。ママさんネットワークはあると思うので、場所を貸すなども含めた支援をするといいと思う。そういうネットワークが見えてくると、子どもを育てようと思えるきっかけになるのではないか。

○待機児童について市として積極的に取り組んでいることはあるか。

→平成29年4月をめどに待機児童を0にするために、民間保育所拡充等に取り組んでいる。

○既存の施設の定員枠を広げることで対応していて、新しい公立保育園をつくることはむずかしいようだ。民間の施設ができていく。平成29年度に向けての施策を組み立てているが、待機児童が0に近づくと、子育て世代の転入が予想される。また、少子化傾向にあるので、枠を広げたり、施設をつくったりすると、将来的に定員割れになってしまうと問題がある。質が落ちてはいけない。ここで取り扱うのはむずかしいかもしれない。

○自分の娘は、同世代の子どものいる家庭が近くに多く、隣近所で子どもを預かりあうといったコミュニティが自然とできている。そういう雰囲気がつくれるとよいと思う。すべてを公共に頼るのではなく、自助・共助があるとよい。

○公的機関がカバーすることは大事だが、地域関係があることが基本だと思う。小金井市は比較的横のつながりがある方だと思う。

○コミュニティビジネスの件では、岩手県の事例がある。ふるさと納税で県産品のお土産品を返すことがあるが、岩手県北上市でカシミアマフラーを使っている。そのマフラーは自宅で作れるもので、就業の機会をつくったと聞く。小金井市でも地域で手づくりするようなコミュニティビジネスの芽はあるのではないかと。

○基本的方向3の施策①について、女性が子育てをしているなかで魅力のある項目になっていると思う。つくば市にモーハウスという企業がある。子連れで職場に来て、授乳をしながら仕事をしている。小金井は能力のある人が多いので、可能性はあると思う。趣味的な集まりはあると思うが、それをビジネスとするには支援がない。そういった具体的なイメージを市がもっていったらどうか。

○武蔵村山市ではウィメンズチャレンジプロジェクトという女性の起業支援のプロジェクトを行っている。男女共同参画課から多摩信用金庫に声がかかった事業だが、女性向けに起業をするための連続講座をしている。そういう支援を通じて、ひとつでも起業が増えると機運が生まれてくると思う。

○小金井の創生は雇用創出からかもしれない。小金井にはあやつり人形の座があるが、稼働する人形を制作して販売してはどうかと話をしたことがある。座の人は考えたこともなかったと言っていたが、それをきっかけに座に人形の動かし方を習いにくる人も出てくるだろう。そうすれば文化も継承され、お金も回るような取組になるのではないかと。

○待機児童と関係するが、保育園が増えていると思うが、次は学童保育が問題になるのではないかと。そのあたりはどうか。

→小金井市の学童保育は定員を設けていない。いまのところは何とかなっているが、本町小学校の子どもが増えると予想されている。

一時的に小学校のスペースを使う予定である。補助金が出るが、補助金の規定として子ども一人あたりの面積が決まっており、その点を勘案しながら対応している。放課後子ども教室も実施しており、子どもの居場所づくりの事業もあわせて行っているのだと思う。

○公民館活動は大人を対象にして、学童保育は子どもを対象にしてきたが、公民館と学童保育は連携できないのか。たとえば、子どもが公民館でパソコンを教えるとか。子どもの成長の要因にもなるだろう。ルールはあると思うが、解釈次第でどうにかなると思うので、考えてもらいたい。ある地方では公民館をなくし、地域交流センターを設置

している。そこで地域の伝統芸能の伝承をしている。祭りに参加することは地域への愛着が生まれる。そういう取組は学童保育ではむしろかしいと思うが、枠をゆるめて公民館活動と学童保育の中間があるとよいと思う。

(3) <基本目標3>における施策・取組・指標等について

○事務局から説明《資料No.13-3》

基本目標3「時代にあった地域をつくり、安全・安心に暮らせるまち」

○基本的な考え方

まちの安全・安心というのは長く住み続けたいと思う重要な要素であり、安全・安心というのは防災・防犯だけではなくて、例えば生活環境のよさであるとか、健康、福祉の充実といったものとか、人と人のつながりを総合的に感じるものであると考えている。

自助・共助という言葉が出てくるが、この自助・共助というのは地域コミュニティが重要な役割を担っているが、ただ、同時に自治会加入率が減少していく中で、人と人とのつながりを見直して、現代の核家族化や単身世帯の増加の状況に合わせたあり方が求められているという状況もある。

今後、増加する高齢者への対応としては、その高齢者がいつまでも元気で、いきいきと地域の力として活躍してもらおうことを目指していくことで、時代に合った地域をつくっていくことになるかと思われる。

○講ずべき施策の基本的方向

・基本的方向1「誰もが不安なく暮らせる安全・安心のまちづくりの推進」

安全・安心に暮らしていくためには、住環境が落ち着いていて、生活環境に不自由が少ないということが重要であり、小金井の大きな魅力ともなっているベッドタウンとしての安心できるような生活環境を守っていくことが必要となる。

そのために地域の防災・防犯についても、地域のコミュニティを活用した自助・共助による地域防災力の向上を目指していくことが重要となり、また、増加する高齢者や障がい者が不自由に感じることをない環境を整えていくことで、誰もが不安なく暮らせるまちづくりを進めていく。

・施策①「安心して暮らせる生活環境の整備」

住環境の保全についても自然との調和を図っていく。特に住居専用地域については維持をしていく必要がある。

高齢者に対してはバリアフリーなどの住宅施策を推進したり、また交通不便地域についてはC o C oバスを充実するなど、安心して住みやすい環境を整備していくということを掲げている。

・施策②「地域の防災・防犯体制の確立」

防災の取り組みには自助・共助が重要であり、そのためには総合的な防災教育または防災訓練を通して、自助・共助の重要性を伝えていくとともに、地域における共助の取り組みの一つである自主防災組織の結成の促進を支援していく。

また、防犯の観点では、日ごろの挨拶が犯罪の予防に大きく有効であるということから、こきんちゃんあいさつ運動といった防犯活動を推進していく。

・施策③「高齢者・障がい者の支援体制の充実」

ひとり暮らし高齢者の見守りや災害時の支援体制の充実を図り、住みなれた地域で安心して暮らせるような地域ケアの取り組みについて、地域包括支援センターを中心に進めていく。

また、障がいのある方にとっても安心して暮らせるように、在宅の障がい者への支援の充実を図っていくということを掲げている。

・基本的方向 2 「誰もが健康で、いきいきと暮らすことのできる地域の実現」

人口ビジョンでも示されているとおり、今後、高齢化が急速に進んでいく。小金井は元気な高齢者が多くいると言われていたことから、仕事をリタイアした後においても地域活動の中心になったり、場合によっては働き手の不足を補完するような役割を果たすなど、元気な高齢者が生き生きと活動する社会を実現していくことが重要となる。それはひいては高齢者自身にとっても生きがいづくりとなり、より長く健康であることにもつながっていくと考えられる。

また、多世代との交流によって、高齢者の持つ多くの知識や経験の伝承にもつなげていくということなど、豊かな地域社会の実現を進めていくことにもなる。

・施策①「健康づくりの推進」

安心して暮らしていくためには、その根本に健康で元気であるということが重要になる。介護予防体操として市で実施している小金井さくら体操の充実や、生活習慣病の予防などに関する講習会の充実、または全身の健康と関連してくる歯の健康への取り組みである8020運動という、80歳になっても20本自分の歯があるという運動の推進、そして健康と密接にかかわる食生活については、食育を通じた健康への取り組みを進めていくということも掲げられている。

また、体を動かすことによる健康づくりとして、スポーツとかレクリエーションを生活の身近なものにしていくことで、体と心の健康作りというのを

進めていく。

施策②「高齢者の生きがいつくり」

今後、高齢化率が上昇し、一方で生産年齢人口が減少することを鑑みて、働き手不足を補完する役割を担うという観点や、働くことが生きがいや健康につながるということからも、シルバー人材センターの活用など、高齢者への就労の機会の提供を行っていく。

また、多世代との交流を促進していくこと、地域活動への参加を促すこと、または生涯学習活動への支援をすることで、生きがいつくりを支援していく。

・基本的方向3「生活を豊かにする地域のふれあい、つながりの醸成」

安全・安心のまちづくりを進めていくために自助・共助が重要であり、隣近所など日ごろの人と人とのつながりが大きな影響を与える。こちらは自然な形で市民同士の交流の機会の提供や、そのための場の充実を進めていくことで、希薄化が懸念される地域コミュニティの醸成や再生につなげて、住みやすさの向上を図っていく。

・施策①「地域でのふれあい・つながりのきっかけづくり」

地域への活動や行事への参加といったきっかけを作って、地域のコミュニティに入りやすい環境作りを支援していくことを掲げている。例えばまずは情報不足を解消していくために、ボランティア活動などの情報提供を進めていくこと、または生涯学習活動を支援していくボランティアやコーディネーターの育成などを通して、そういったところに入っていききっかけづくりにつなげていく形を掲げている。

・施策②「豊かな地域生活の実現」

ふれあいとつながりのきっかけとなり得る場となる図書館、公民館の充実や活用を図り、個人の生活が豊かになるように支援をしていく。

また、各地域にある集会施設についても、そのような場として活用できることから、有効であると考えている。

また、多くの方が参加できるように参加しやすい講座、時間・内容・対象者的にも参加しやすい講座を充実することや、地域で貢献している高校生や大学生の若者グループの活動を支援していくということで、豊かな生活の実現を目指していくということを掲げている。

K P I は、住居専用地域の割合、C o C o バスの利用者、自主防災組織の数、または65歳健康寿命の延伸といったものを掲げている。

資料14のご意見についても、大体ニュアンスとしては含めているかと思

っているが、基本的方向1の施策③「高齢者・障がい者の支援体制の充実」というところで、例えば独居老人のケアをどうするかといったところは第1回や第2回にシェアハウスといったお話も出てきたところだが、地域全体で見守っていくというところであったり、または世代間交流といったところでカバーしていく。シェアハウスというのは具体的に今何か行われているわけではないが、そういったところで一つのアイデアとしてあるのかなと思っている。ニュアンスとしては多世代交流や見守り支援にあたると考えているところである。

(主な意見)

○CoCoバスの利用者は100万人とあるが、実際どれぐらいの運用費がかかっているのか。

→正確な金額は手元にはないが、赤字の解消は市の課題になっており、値上げの話も議会では出ている。

○道路整備なども考えているか。歩きやすい道路や自転車で走りやすい道路などがあると歩いてみよう自転車で出かけようとなり、健康づくりにつながる。

○こきんちゃんあいさつ運動はどのようなものか。

→運動をする人にバッジを配布し、そのバッジをした人が小さいお子さんたちに声をかけている。そこから防犯を高めていこうという意図がある。平成21年度からはじめた事業である。

○お店の人がバッジをつけていると、お店の人が見守るような街になる。小金井の企業にも声かけ運動を広めると、防犯も広がっていく。住民だけでなく、市内で働いている人にも手伝ってもらえるとPRにもなるだろう。

○最近の体験では、近所のもちつき大会に参加したが、地域に参加できたという満足感があった。もちつき大会をするには道具が必要だが、農家にはそういったものを持っているだろうから聞いてみるとよい。それが近所づきあいのきっかけになると思う。それが基礎になって安全・安心なのかなと思う。神戸の震災では近所づきあいがあったおかげで救出活動などが適切に行われたと聞く。

○基本目標3は大学生のことが書かれていないが、大学生が地域活動に参加できるとよいと思う。

○小金井市は町会を把握しているのか。そういうところへの補助や支援は考えられるのか。

○町会が煩わしいこともある。そのバランスがむずかしいと思う。

○古くから住んでおられるからだと思う。小金井市は新しく移り住んでいる人も多いので、そこをどうにかしないといけないと思う。

○立川市で「オトナリ at 立川」というイベントをやっている。商店街を巻き込んで、イベント参加者はリストバンドをして、話しかける機会を提供している。そういう取組はおもしろいと思う。

○つきあいが煩わしいと思っている人が多いと思っていたが、つながりたいと思っている人が多いのだなと思った。

2 その他（意見交換等）

○事務局から説明

- ・長期計画策定にあたって、「まちづくりカフェ」を実施した。その中で出てきた意見についても、総合戦略に活用できると考えている。
- ・次回の日程について説明した。
第5回 1月18日（月）午後6時～
- ・第6回は3月初旬頃を予定している。

～以上で会議終了～